

豊後高田市における 地域武道指導者と協働した授業の取組

豊後高田市教育委員会

大分県豊後高田市は、国東半島に位置する暖かな歴史のあるまち。

市中心部の「昭和の町」は、まちづくりの手法が高い評価を受け、各方面から多くの賞を受賞しており、国宝「富貴寺大堂」をはじめとする豊富な文化的観光資源と相まって、毎年多くの観光客にお越しいただいています。

また、古くは室町時代、九州最古と伝えられる私塾「戴星堂」や「涵養舎」などの学問が盛んだったこともあり、現在は市営の無料塾「学びの21世紀塾」など地域と一体となった取組により、「教育のまち」として全国に発信されています。



豊後高田市田染にある国宝「富貴寺」

1 はじめに

本市は、平成21年度より、地域の武道指導者に協力を得た保健体育科の授業を実践研究してきた。

今回は土谷幸生主幹教諭の取組を中心とした実践報告とした。

土谷主幹教諭は、大学で剣道を受講しただけで、指導経験は全く

なかった。そのため、実技指導のほとんどを地域武道指導者に依存しての始まりであった。試行錯誤しながらも、6年を経過し、ひとつの方向性を示すことができるようになった。今回はその経過と実際を紹介させていただく。

「形」に費やした。指導内容を並べ、これができたら次の段階というステージ型の授業は、はじめて剣道着を纏い、期待感に満ちた生徒のモチベーションを向上させることに至らず、剣道の楽しさを十分味わわせることができなかつたと反省した。

2 ステージ型から スパイラル型授業へ

平成21年度の授業は、剣道着の着方・防具の着装・礼法の指導に3時間を要した。空間打突や体さばきの指導を経て、対人での面打ちに移行する。小手・胴などの基本打突を指導し、最後に対抗試合という一連の流れは、12時間の指導計画のうち、実に3分の2を

平成23年度から平成25年度に至っては、土谷主幹教諭自身が大分県教育委員会の主催する指導者講習会に参加し、その内容を地域武道指導者と共有しながら、指導計画や指導法を検討し、授業の工夫を試みた。特に藤田弘美氏よりご指導いただいた「体ほぐしの運動」や対人性を生かした学習形態の工夫は、光明を見出すことになった。

(1)「剣道の動きにつながる体ほぐしの運動」を取り入れる

以下のような体ほぐしの運動を導入として取り入れることで、楽しく運動を行い、学習への興味・感心を高めることにつながることできた。また、これらの運動は、地域武道指導者の運営する剣道教室でも取り入れられ、好評であったという。

- ① エア剣道、② バランス崩し、③ じゃんけんゲーム、④ 面タオルとり、⑤ 新聞切り。

(2)相手の動きに応じた技の習得を図る

一対多で、一人が「前・後・右・左」と動く方向を指示し、それに合わせて動き、「面・胴・小手」の指示で空間打突を行う。はじめはゆっくり行いながら、質を高めていく。一対一で同様に行い、受け方を指導する。これらの運動を毎時間行い、技の出来栄や、立ち合いの作法など演武性を競わせる学習活動を取り入れた。

判定試合には、声の大きさ・竹



【体ほぐしの運動】新聞切りは人気



【地域武道指導者】きめ細かな指導が可能になる



【判定試合】立ち会いの作法を競う判定試合



【判定試合】簡易試合（1分間）

*「形」による指導
 i 木刀による剣道基本技稽古
 ii 日本剣道形 立ち会いの作法については、教師と地域武道指導者が示範を見せるときに、敢えて間違いを盛り込み、それを指摘させる学習を取り入れる

ことで、知識や理解を深めようとした。
 ⑤技の習得
 *学習ノート・資料等の工夫
 *VTR・GT（ゲストティーチャー）の活用
 学習の自己評価については、

短時間でまとめられるよう、振り返りの項目を選択解答式で記入させるようにした。VTRを視聴させ、できるようにしたこと
 *ペア・グループなど学習形態の工夫

グループで指示する役割を交代させながら基本技を練習させたり、ペアで役割を交代させながら練習させることで、相手の動きに応じた技ができるようになる楽しさを味わわせる。
 *「胴打ち」から教える
 安全な受け方を指導して、胴

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学習内容の確認・体ほぐしの運動											
相手の動きに応じた基本動作の練習											
基本打突（面・胴・小手）				基本となる技（連続技・引き技）				得意技			
約束稽古						掛かり稽古					
判定試合				判定試合				対抗試合			

【指導計画】第1学年 12時間の指導計画

刀の位置など判定する項目を分担させ、相互に勝敗を判定させることで、意欲の向上を図るとともに知識・理解を深めることにつなげ

た。
 上の資料に示すように、指導計画をスパイラル型にしたことで、

平成21年・22年度には1年生に指導できなかった連続技や引き技の指導が可能になった。

3 剣道の授業で押さえるポイント

- (1)指導する内容を押さえ、指導と評価の一体化を図る
 「剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたたりするなどの攻防を展開すること」という技能だけでなく、態度・知識、思考・判断について、評価の観点や評価の行い方について地域武道指導者と共有した。特に、技能については、指導した直後に評価するのはなく、時間をおいて評価することとした。
- (2)「剣道」を学校体育の教材としての〈剣道〉にアレンジする
 剣道の運動課題は、「一本」（有効打突）をとることにある。課題を達成させるための過程において、相手に応じた動き・攻防、武道の伝統的な考え方、相手を尊重する態度などを学習させることとした。また、「剣道」の特性や魅力を「わざ」から考えさせ、「わざ」の学習を通して「対人性」や「文化性」に触れさせ、「わざ」を習得する過程で「競争」と「協同」を体験させるように構成した。礼法を重視するあまり、生徒の運動量を十分に確保できなかった反省をもとに、伝統的な考え方や「礼」は判定試合を行う際など、小出しにして指導することとした。
- (3)授業づくりの工夫
 ①オリエンテーションの工夫
 *地域武道指導者の招聘
 平成21年度より協力してくださった方で、指導の方針も深く理解してくださった。
 *VTRの視聴
 剣道を扱った番組を視聴させ、興味・関心をもたせるようにした。
- ②授業の雰囲気や導入
 *「体ほぐしの運動」の導入
 *規律ある授業、真剣になれる場を設ける
- ③剣道具の着脱は「一斉指導」から「ペア学習」
 *早い段階から、少しずつ身につけて活動、その日の学習内容に応じて防具を着用する。
 *「一斉指導」でポイントを徹底
 *ペアを組んで仕組みやポイントを理解させる
- ④特性に触れる教材づくり

連続写真で究める 最新刊 少林寺拳法

柔法編 II

「連続写真で究める少林寺拳法」シリーズの最新刊！
第4弾となる本書は「柔法編II」。

第4巻で解説する法形

逆小手、逆手投、龍投、外巻天秤、諸手逆小手、諸手送小手、片手送小手、送巻天秤、送肘攻、送四指捕、両手押小手、小手巻返、十字小手(片手)、略十字小手、巻十字小手、切小手、切返天秤、切返巻天秤、切返小手、切返投

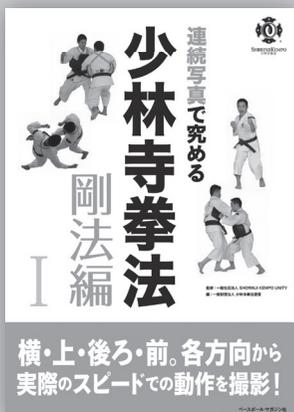
監修◎一般社団法人 SHORINJI KEMPO UNITY
編◎一般財団法人 少林寺拳法連盟 ベースボール・マガジン社
B5判・184頁 / 定価(本体2,500円+税)



横・上・後ろ。各方向から実際のスピードでの動作を撮影！さらに、ポイントをアップ写真で解説

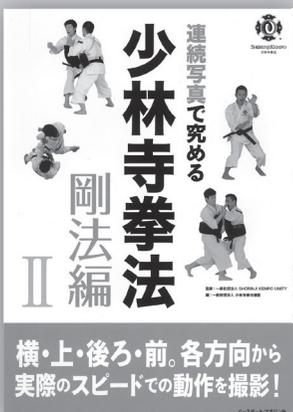
好評発売中!

好評既刊



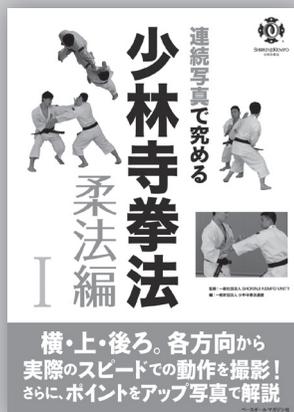
横・上・後ろ・前。各方向から実際のスピードでの動作を撮影！

剛法編 I



横・上・後ろ・前。各方向から実際のスピードでの動作を撮影！

剛法編 II



横・上・後ろ。各方向から実際のスピードでの動作を撮影！さらに、ポイントをアップ写真で解説

柔法編 I

各巻定価(本体2,500円+税)

打ちから指導することで、技が決まる爽快感を味わわせることができる。

*「有効打突(二本)」に関する知識・理解を図るための工夫

「有効打突」については、竹刀に色テープを貼り、明確に示したり、有効打突に繋がる範囲を広げたりして、「一本」を取りやすくするなどした。

⑥自由練習と試合

*位置づけやルールの工夫

・判定試合

・限定試合

・簡易試合

判定試合は、一本を競うだけでなく、技の出来栄を競う演武性の高いものを学習の過程に適宜行えるようにした。最終的には、ペアやグループで得意技を練習して、対抗試合を行い、攻防の楽しさを味わわせることとした。

4

指導者の愛好度も大切

「猛者ばかり来るよ!」。地域の保健体育科の教員たちの声をききながら、平成26年5月、子どもへの体向上指導者養成講座の剣道の講習会に土谷主幹教諭は参加した。

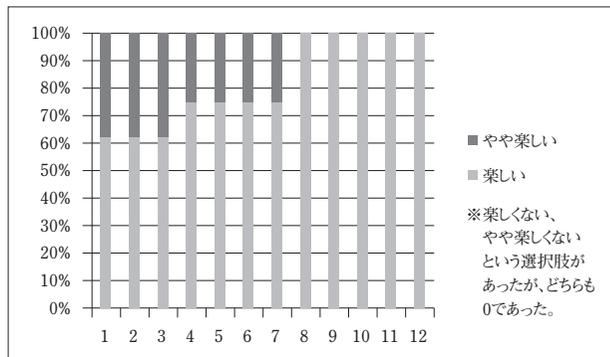
講師の藤田弘美先生はじめ、剣道専門の諸先生方の懇切丁寧なご支援のお陰で、体力的にはきついにもかかわらず、剣道を楽しく感じている自分に気がついた。

5

おわりに

武道必修化から3年が経過した。本市においては、報告にあるように、地域武道指導者の協力を得た保健体育科の授業づくりの研

究に力を入れてきた。その結果、生徒アンケートでも見られるように武道に対する関心・意欲・態度の向上が見られる。最後に、平成26年度の授業アンケートを掲載し、まとめたい。



【生徒アンケート】1時間単位の授業後のアンケート結果

た。本市においては、報告にあるように、地域武道指導者の協力を得た保健体育科の授業づくりの研

究に力を入れてきた。その結果、生徒アンケートでも見られるように武道に対する関心・意欲・態度の向上が見られる。最後に、平成26年度の授業アンケートを掲載し、まとめたい。ようやくになってきた。しかしながら、保健体育科教員の指導力向上、武道施設の補修や用具の補充など課題は残っている。様々な課題に対し、今後も継続的に取り組んでいきたい。特に、地域武道指導者との連携をより密にし、充実した武道指導を実践したいと考えている。そして、「夢を描き、実現できる子どもを育成」のために努力していきたいと思う。